

白河、 サイコウ のすすめ

再考って、
最高だ

獨協大学経済学部
高安ゼミ
白河Re:PGチーム

はじめに。

白河市の高校生の皆さん、初めまして
私たちは獨協大学経済学部高安健一ゼミナールの3年生です

獨協大学は白河市から約180km離れた
埼玉県草加市に位置しています

地方創生に関心がある7人が集まり
白河市をフィールドとした活動を決めたのは2021年2月
メンバーの1人が白河市出身だったことがきっかけでした

人口の社会減少についてヒアリングや調査を進めていくと
進学や就職に伴う人口流出が課題であることに気が付きました

そこで私たちは白河市の高校生に注目したのです

私たちがしなければならないことは
皆さんを「必ず白河市に残すこと」ではありません

外部の視点を持った大学生である私たちができることは2つ
1つは、外から見た白河市の良さを様々な形で伝えること
もう1つは、進路に関する多様な選択肢を提示すること

白河に残らなくても、白河のことを愛し続ける

こんな視点で白河を見つめ直したら
高校生の数だけ、進路の考え方があるって知ったら？

皆さんの人生の選択肢に
「白河に住むこと」「白河に戻ることに」が加わるかもしれない

そのような想いを込めて制作したのが
この『白河、サイコウのすすめ』です
あなたと白河の未来を考えるきっかけになれば幸いです

CONTENTS

01 はじめに。

☐ SURVEY

03 アンケート調査結果

☐ ARTICLES

06 KAKECOMI

10 とら食堂松戸分店

13 白河川島製作所

16 Break ～Books and Movies For Teens～

17 Break ～Talking about Shirakawa～

18 市役所対談

☐ OTHERS

22 Shirakawa Coupon

23 大学生の進路って？

25 私たちの活動記録

26 Special thanks

福島県白河市

白河市内三校への

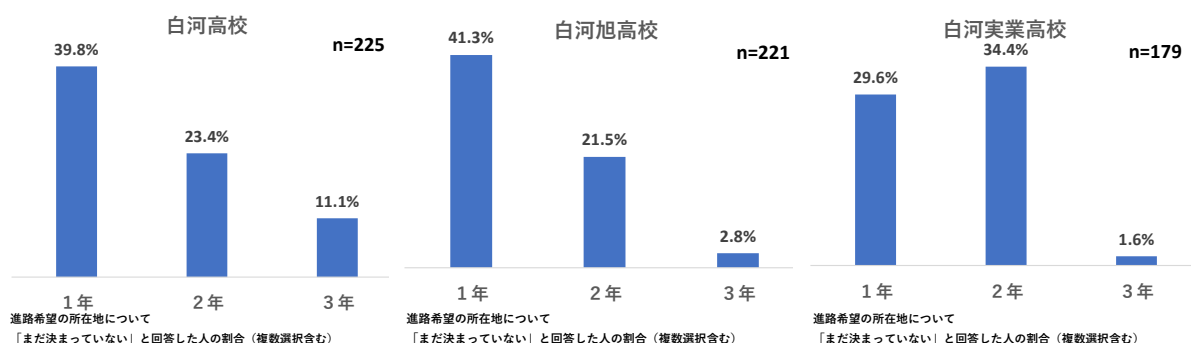
アンケート調査から

発見できたことを

まとめました。

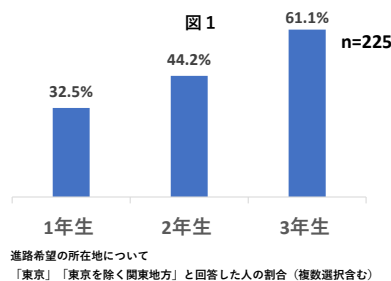
高校生の進路希望調査に関するアンケート
実施期間：2021年7月30日～9月2日
実施対象：白河高校・白河旭高校・白河実業高校
回答者数：627人

メインターゲットは高校1年生。その訳は。



上のグラフを見てほしい。高校卒業後の進路希望の所在地が「まだ決まっていない」と回答した生徒数の割合が、**学年が上がるごとに全ての高校で減少する**。1年生の段階では進路を決めかねているのである。はやい段階から多くの情報を吸収して消化することが、卒業後のより良い選択につながると考える。

以上のことから本冊子は、高校1年生をターゲットに制作された。

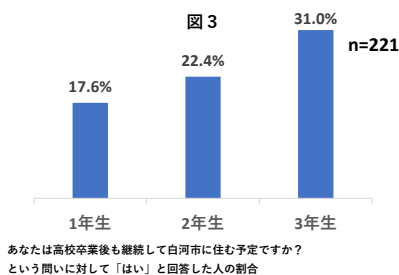
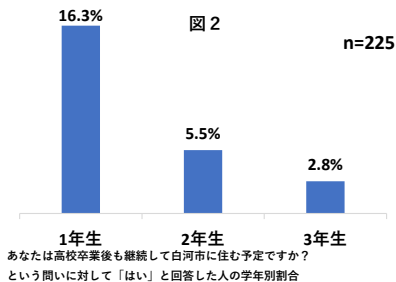


【白河高校】

大半の生徒が首都圏への進学を希望

2つの図から卒業後に白河市を離れて首都圏の大学へ進学しようと考えている人が多いのではないかと推測できる。図1を見ると、学年が上がるにつれて「東京」「東京以外の関東地方」と回答した人が増加している。学年が上がるごとに第一志望の大学が決まり、その大学が関東にある場合が多いのだろう。

続いて、卒業後も継続して白河市に住む予定かという質問に対して「はい」と回答した人は学年が上がるごとに大幅に減少していく。ほとんどの生徒が白河市外、主に関東地方へ進学するとみられる。東北地方を希望する数も少ないことに関しては、有名私立大学が関東に集中していることが要因だと考えられる。



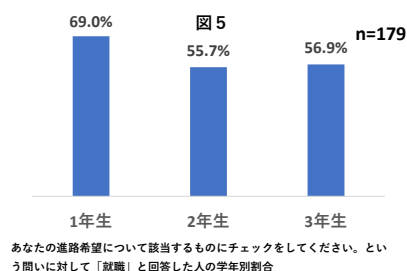
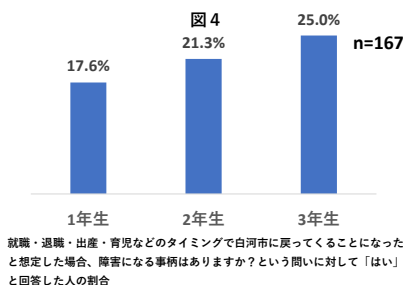
【白河旭高校】

働きたいと思える企業が白河にあれば…

図3を見てほしい。卒業後も継続して白河市に住む予定と回答した生徒の割合は、学年が上がるにつれて増える。

しかし、図4を見ると同時に白河市へ将来戻る事に抵抗を感じている人の割合が3年生になるにつれて増加していく。

白河市に住み続ける人もある程度いるものの、市外へ居住地を移す人の中で白河市へ戻ることへの抵抗感を持っている人がいるのも事実だ。戻ることへの抵抗の要因としては、他のアンケート結果の分析から、働きたいと思える企業が市内にないことが考えられる。



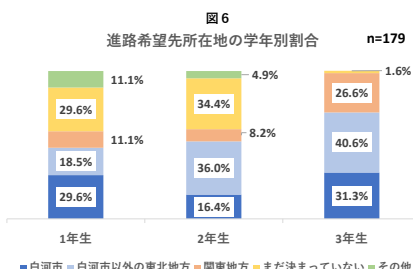
【白河実業高校】

地元就職で白河の経済を支える

まず図5を見ると、各学年で就職する生徒の割合が50%を超えている。これは白河実業高校の大きな特徴である。

次に図6を見てほしい。白河市に残ることを考えている人がかなり存在する。

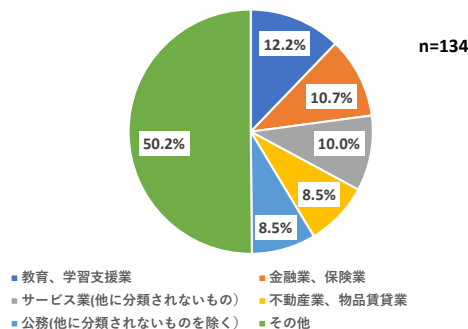
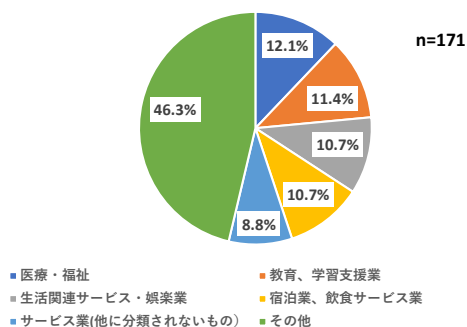
これは白河市とその周辺に製造業が集中しており、かつ多くの卒業生がその企業で活躍しているためだと考えられる。さらに、3年生の7割以上が東北地方を進路希望先所在地として選んでいることも特徴として挙げられる。



大学生の卒業後の進路

女子学生

男子学生



両アンケート実施期間：7月6日～7月31日

大学生を惹きつけるには希望する仕事を提供する必要

市外の大学に進学した学生を白河市に呼び戻すには、希望する仕事があることが大前提である。学生が卒業後に就きたい職種を男女別に集計したところ、白河市の製造業中心の産業構造とミスマッチがあることが判明した。例えば、男子学生に人気の金融・保険業や不動産・物流賃借業は白河市には少ない。多くの女子学生が希望する生活関連サービス・娯楽業も充実しているとは言い難い。情報通信産業関連の事業所数は限られる。

大学生が就きたい仕事を市内で創出する必要がある。同時に、白河市の既存企業の情報を大学生に提供し、希望する「職種」があることを認識してもらうことも忘れてはならない。

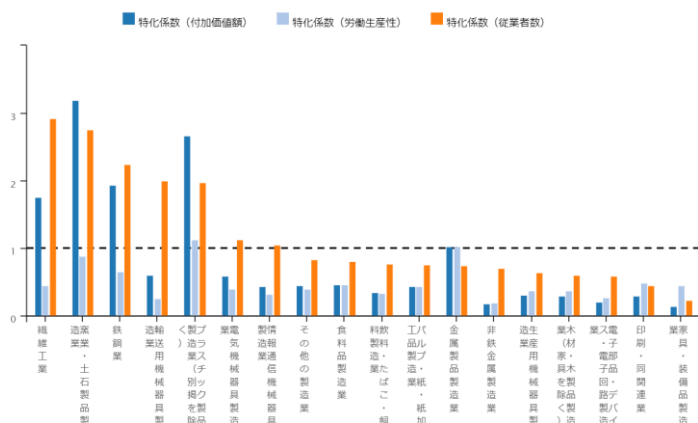
白河市の産業構造

製造業に依存した経済、生産性の向上が経済発展の鍵？

特化係数※に注目

白河市の産業構造について見るとやはり製造業が盛んであると言える。

しかし、特化係数に注目すると、グラフのように労働生産性のみ1を上回っていない。これは白河市の多くの企業で投入した労働力に対して生産性が十分に確保されていないことを示している。今後、労働生産性を1以上に引き上げ、さらに付加価値額を上げるために対策を講じていく必要があると見て取れる。



出典：RESAS (2021)産業構造マップ 産業別特化係数2016年

※その地域のある産業がどれだけ特化しているかを示す係数。1.0以上でその産業が全国と比較して特化しているといえる。



新白河駅から徒歩5分
毎週月曜日に開かれる
まかないこども食堂『たべまな』
「こどもはまかない おとなはカンパ」が
ここのルール

鴻巣さんは6年前に
非営利団体KAKECOMIを立ち上げた
そこからずっと「半分ヨソモノ」として
白河の子供たちを見守ってきた

そんな彼女がいま、
白河の高校生に伝えたいことは

非営利団体 KAKECOMI 代表
鴻巣麻里香



高校生を助けるかもしれない三つのキーワード

- ①迷ったら勉強しておけ
- ②変えてもいい、辞めてもいい、責任は自分に
- ③大人が社会を変える、あなたは好きに生きて

自分の人生を肯定したい

鴻巣麻里香さん（以下鴻巣さん）は、非営利団体KAKECOMIの代表として、こども食堂やセーフティハウスの運営をしている。ソーシャルワーカーとして働いていた彼女は東日本大震災をきっかけに白河に移住。大病を患ったことを機に退職しこども食堂を始めたのは六年前のことだった。

「正解だったかって、今でも分からないですね」自身の人生を振り返ってそう語る。それでも懂れていた演劇の道を捨てて大学院まで進んだこと、ソーシャルワーカーとして病院で働いたこと、そして六年前にKAKECOMIを立ち上げたこと、その全てを良かったと言っていた彼女が話す。「良かったって言ってあげた方が自分に優しいよね」と。

迷ったら勉強しろ。高校生にとっては聞き飽きた言葉かもしれない。しかし、鴻巣さんが伝えたいことは少し違う。確かに学生時代の勉強は大変だ。面倒くさくて、つまらなく感じることもあるだろう。でもいまあなたが感じている苦痛は、本当に勉強そのものに対してだろうか？

彼女が、勉強のつらい所は勉強した結果比較されたり、怒られたりするところにあるのだと語った。「怒られて周りから評価されることは苦痛だけど、勉強に罪はなくて、そうしてやる人にあるだけ」

なんで勉強するの？

高校時代に培った基礎学力は、イメージより鮮明にするという。例えばあなたがイラクに関するニュースを見たとき、それがどこに位置する国かすぐに出てくるだろうか。もちろん知らなくても困らない。でも知っていることで脳内で描く図はより鮮やかになる。鴻巣さんは勉強というものをそんな風に捉えていると話した。だからこそ迷ったときには勉強してほしい、あなたの生活のすべてに奥ゆきと鮮やかさが生まれるのだから。



決めたのは自分。
なら、やめてもいい。

高校生にとって、進路選択は重要だ。その時の決断が、まるでその先の人生すべてを決めてしまうような気持ちになる。だが鴻巣さんが進路選択について伝えたいことは実にシンプルだった。どこで働いてもいい、ダメだと思ったらサッと引こう。この二つである。もしかしたらあなたの周りの大人たちは、自分で決めたんだから最後までやり遂げなさいと言うかもしれない。でも鴻巣さんはその考え方に異論を唱える。「自分で決めたんだから、自分でやめていいんです」高校生の時のあなたが最善だと思って取った選択が、時を経てそうではなくなったのなら、その時は誰にはばかることなくやめていい。進路選択はそれくらい軽く考えていいのだ。

「 鴻巣さんからみた白河市 」

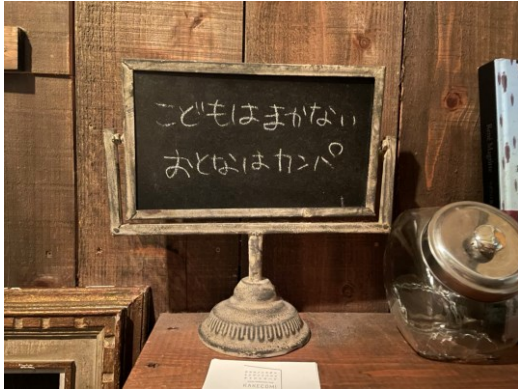


新しいものを取り入れることには
前のめりな風潮

こども食堂の運営を
熱心にサポートしてくれる

白河にとって良い人間かで
判断する側面も

排他的な部分とオープンな部分が
渾然一体となった地域性



今は大人のせいにして
「みんながいつでもやり直しがきく社会にしたい」最後に鴻巣さんはそう話した。彼女が目指すのは、例え何かを失っても、最低限の衣食住だけは絶対に失わない世の中。それすらも難しい今の世の中のシステムが、高校生をはじめ多くの人を苦しめているのだと語る。だから生きづらさを感じているのだとしたら、それは絶対にあなたのせいではない。



突然の訪問にも関わらず子供たちは温かく迎えてくれた

白河市の、日本の変え難いシステムのせいなのだ。だが鴻巣さんは凛とした表情で言ってくれた。「そういうのは大人の責任で何とかするので、高校生が社会に出る頃にはそういう社会ではなくなっている。だから皆さんは好きなことをして」自分で選んだことも、違うと思っただけやめていい。誰かの役に立ちたいという軸で決めなくていい。好きなことをしてさえいれば、それがいつか自分のあずかり知らぬところで誰かの役に立っているはずだ。鴻巣さんは白河の高校生にそう生きてほしいと話した。



鴻巣麻里香

こうのす・まりか/1979年生まれ。埼玉県出身。一橋大学大学院中退後、精神保健福祉士として10年近く活躍。その後ソーシャルワーカーとして白河市で非営利団体KAKE COMIを設立し、現在に至る。



鴻巣さんのある1日のスケジュール



年間休日

120日

土日祝日は基本お休み

とら食堂 松戸分店

店主 小林和明

白河市の大人気ラーメン店「とら食堂」に惚れ込み
修行のため家族を連れて白河へ移住
十年間千葉で白河の味を発信し続ける男性を取材した



職人仕事。千葉県松戸市で「とら食堂松戸分店」を営む小林和明さん（以下小林さん）は、白河ラーメンをそう表現した。白河で一番有名なラーメン屋とも言われるとら食堂。そこで作られる白河ラーメンは、とにかく手間がかかる。粉と水を自身の腕でひたすら捏ね、青竹を使って手作業で伸ばす。これらの作業は全て自分の体一つでこなさなければならない。

「他のお店の方々は真似できないというより、したくないんでしょうね」小林さんはそう言って笑った。小林さんはそんな白河ラーメンを作る人たちの職人気質に心を揺さぶられた。三十三歳、縁もゆかりもなかった白河に移住し、白河ラーメンの世界に飛び込む決意をした瞬間だった。

高校生を助けるかもしれない3つのキーワード

- 一、白河ラーメンをやるという覚悟
- 二、第二の故郷 白河の温かさ
- 三、誰よりも早くスタートを切れ



移住期間中に白河で仲良くなった方から
開店祝いに贈られた白河だるま



味玉をトッピングした中華そばは絶品（780円）



年間休日

約80日
(週休1日～2日)



小林 和明

こばやし・かずあき/1975年生まれ。
千葉県松戸市出身。専門学校卒業後
会社員として働き、33歳の時に白河
ラーメンをやることを決意。2年3か
月白河市で過ごし、とら食堂で修業
を積んだ。その後、2011年にとら食
堂松戸分店を開業し現在に至る。



とら食堂での修行を決めた小林さん。しかしそれは、地元である松戸を離れ、白河市に移住することを意味していた。当時の小林さんは既に結婚しており、長男も生まれたばかりだった。それでも小林さんは松戸の家を引き払い、一家総出で白河へ移住。二年三カ月という期間を白河市で過ごした。「本気で覚えるには行かなくやダメでしょ」小林さんは当時を振り返ってそう語った。

白

白河市に移住してからは、地元の人たちの温かさに何度も驚かされた。「息子と公園に行った女房が、ママ友作って帰って来るんですよ」知らない土地での子育てを助けてくれたのも白河の優しさだったのだろう。店内に飾られている大きな白河だるま。これも移住中に会った人が開店祝いに贈ってくれたものだった。「白河の人たちのおかげで今がある」小林さんはそう繰り返した。

ラ

ラーメン激戦区とも言われる松戸市で、2020年の百名店にも選ばれた『とら食堂松戸分店』。小林さんはそんな自身のお店を、白河ラーメン周知のきっかけにしたいと考えている。松戸で初めて白河ラーメンを食べたお客さんが本店は白河市にあると知り、実際に白河まで足を運んでみる。そうした流れをここ松戸で作っていくことが白河への恩返しになればいい。白河市を『第二の故郷』と語る小林さんの思いが垣間見えた瞬間だった。

専

専門学校卒業後、ファミレス勤務を経て三十三歳でラーメン業界への転身を決めた小林さん。そんな彼が今の高校生に伝えたいことは、スタートダッシュの大切さだった。今の人生に後悔はない。だがあと十年早く白河ラーメンをやる覚悟を決めていたら？そんな風に考えることがあるという。だから今の高校生には、少しでも早く一步を踏み出してほしいのだ。「高校生の時の、楽しいことの誘惑って凄じくないですか。」



で

も将来こうなりたいなんて思うものがあるのなら、スタートは誰よりも早く「学生のうちから『好き』や『やりたい』を見つけて行動すること。それが十年後の未来を変え得るような、大きな流れを生むのかもしれない。」

とら食堂松戸分店

千葉県松戸市紙敷1-8-6
アクセス：松飛台駅から徒歩1分
営業時間：11:00～14:30
17:00～スープ完売まで
定休日：火曜日（月1回火水連休あり）





白河川島製作所 遠藤滉也

私たちが通う獨協大学のある埼玉県草加市に
本社を構える川島製作所
その子会社が白河市にあると知り
ただならぬ縁を感じた我々は
すぐに取材を申し込んだ

そんな経緯で実現した今回の取材
「地元で生きていく」をテーマに
白河実業高校出身、
弱冠二十歳の遠藤さんにインタビューする

実業高校で過ごした青春

遠藤滉也さん（以下遠藤さん）は西白河郡矢吹町に生まれ、実業高校を卒業後すぐに白河川島製作所に入社した。二十一年という人生のほとんどを白河で過ごしてきた遠藤さん。白河での思い出の場所を聞かれると、悩みつつも母校である実業高校の名前を挙げてくれた。「クラスに女子がいなかったので寂しかったんですけど、男子は男子ならではの楽しさがあった」友達と購買に行ったことや皆でたわいもない話をしたことを思い出す。

社会人になり、はじめは歳の離れた職場の人との関係に戸惑ったものの、高校時代にアルバイトで様々な年代の人たちと関わっていたことが役に立った。友人との思い出の場所でも、社会人になるまでの準備期間でもあった高校時代。どんな思い出も経験も、振り返るとその後の自分の人生に繋がっていたのだと気が付いた。



高校生を助けるかもしれない 3つのキーワード

- ①思い出の場所は**母校**
- ②後悔はいずれ別の**何か**に変えられる
- ③**自分**で決断する、他人に任せない

いま後悔してる？

社会人になってからの金銭面について尋ねると、就職を控えた高校生に伝えたいとあるエピソードを話してくれた。「今の会社はボーナスなどの待遇の良さも考慮して決めたんですけど・・・」だが遠藤さんは入社後ボーナスとはその年の業績によって額が異なるものであると知った。「自分は求人票に書いてある額が毎年貰えるわけではないことを知らなかったで、その辺りは注意ですね（笑）」

遠藤さんは今年で社会人三年目。任される仕事も増えてきた。「先輩から自立して自分ひとりで作業が出来るようになって、会社の利益になるにはどうしたらいいか考えるようにもなりました」高校時代に学んだ知識を経験によってさらに深め、自分の仕事に誇りを持って取り組んでいる遠藤さんは眩しく感じた。「やりたいことがあまりなく、高校進学や就職は流れて決めてしまった」そう話す遠藤さんだが、楽しかった高校時代のことや充実している現在のことを思うと、自分の選択に後悔はないという。

白河で働く イコール 白河で生きる かも



だが社会人として経験を重ねるうちに、高校生のうちにやりたいことを見つける大切さを感じるようになった。「最近になって、何かをやってみて後悔したとしても、その経験は別の何かに変えられるんじゃないかと考えるようになりました」

自分だけの人生 なら自分で決めよう

そしてもう一つ、遠藤さんが高校生に伝えたいのは『自分で決めることの大切さ』である。進路選択の過程で、大事な決定を両親や先生に任せなくなることもあるだろう。だがそうして決まった進路は、失敗や挫折にとっても弱い。自身が先生に勧められた進路を選んだ経験から「何か失敗した時にあれのせいだ、これのせいだって他の人のせいにしちゃうんですよね」だから後輩には全部自分の中で納得して決めてほしい。それが例えやりたくて堪らなかったことではなかったとしても、大した問題ではない。真剣に考えて自分だけの答えを出すのが大切なのだ。



遠藤 滉也

えんどう・ひろや/2001年生まれ。白河郡矢吹町出身。福島県立白河実業高等学校電気科を卒業後、白河川島製作所入社。

遠藤さんの 1日スケジュール 年間休日 120日



BOOKS AND MOVIES FOR TEENS

10代に触れてほしい小説・映画、集めました
「高校生の時に知れて良かった」
あなたもきっとそう感じてくれるはず
メンバーが厳選する珠玉の4作品です

カラフル 森絵都(1998)

死んだはずの「ぼく」は、天使の指示で自殺した少年の体を借りて1年間暮らすはめに。そんな「ぼく」がもう一度生まれ変わるための条件は、“自分の犯した罪を思い出すこと”。
「ぼく」の犯した罪とは一体。



笑えよ 工藤水生(2012)

予備校を舞台に、3人の高校生が性別や恋愛感情を越えた「名前のない関係」を紡いでいく。誰かを好きになることへの葛藤や、誰のことも好きになれない苦悩を丁寧に描写した作品。



ビリギャル (2015)

学年最下位的女子高生が最難関大学を目指し奮闘する物語。伸び悩み成績に何度も挫折しそうになるが、彼女の可能性を信じ続ける大人たちに支えられながら諦めず努力していく。



マイレージ、マイライフ (2010)

働くことに生きがいを感じていた主人公は、ある新入社員との出会いをきっかけに自分の人生について考え始める。仕事や人との出会いによる主人公の心情の変化が見どころ。



Talking about Shirakawa

高校生が

白河にほしいもの。

白河市にやってほしいこと。

アンケートの自由記述欄から見えてきました。

バスの本数を
増やしてほしい!

学校周辺・市内に
自習できる場所が
ほしい!!

白河市が交流の生まれやすい
安全な街になることを望んでいるのかも

スケボーやバスケットなどの
運動ができる場所を
つくってほしい!

街灯を
増やしてほしい!

皆さんから届いた意見やアイデアは、

私たちが2022年2月に

責任を持って白河市役所に報告します。

白河市役所は生の声を待っています。

選挙権がなくても、政治に詳しくなくても大丈夫。

白河に住むあなた達だから変えられる、白河の未来があります。

白河市役所ホームページ





獨協大学卒 白河市役所職員

白河市出身 現役獨協大生

大学進学を機に埼玉県に上京した3人が
県外進学とUターン就職をテーマに
白河の昔と今、そして
進路選択の難しさについて語り尽くす





白河が好き
それは一度出たからかも

この日集められたのは、十歳ずつ歳の離れた三人。彼らの共通点は高校時代を白河市で過ごしたこと、そして高校卒業後に獨協大学へ進学したことである。

三人とも、白河を出る前は自分たちの地元を何も無い街だと思っていた。だが一度外に出てみて気が付いた。新幹線が止まる新白河駅、多くの人に愛される白河ラーメン、図書館やコミネスをはじめとする充実した施設。

白河市は意外と色々揃っていた。
「白河って何もねえじゃん！って思ってたけど、何も無いって一体何がなかったんだろうね」佐藤さんはそう話す。「白河を出たことがある今の方が白河のことが好き」そう語る三人から、地元を出たことで気付く魅力があるのだと教えられた。

東京で働く、地元に戻る

白河市から遠く離れた埼玉県草加市で大学時代を過ごした三人。その全員が地元に戻るかを悩んだことがあるという。八巻さんは当時東京の企業から内定をもらっており、佐藤さんも一度都内の人材派遣会社に就職している。

高校生を助けるかもしれない

3つのキーワード

- ①白河は本当に何も無い？
- ②市役所職員として、地元に戻る
- ③あなたが心惹かれる選択を

しかし、二人とも都内で働いている自分には違和感を感じていた。このまま東京で働くべきか悩んでいた二人が白河へのUターン就職を決めた背景には、公務員という職業の存在があった。



利益の追求を目的としない公務員。それなら企業就職よりもフラットな気持ちで人のために働くことができるかもしれない。そして自分たちが役に立ちたい誰かというのは、地元である白河市の人々なのではないか。自分たちが本当に理想とする働き方は白河にあったことに気が付いた。

地元を出ることも 選択肢のひとつ

あなたは、これから卒業までに自分の進路について何度も思い悩むだろう。自分は白河を出るべきか、そもそも本当にしたいことは何か。目の前に広がる無限とも思える選択肢に、足がすくみそうになるかもしれない。だが三人は、その選択肢が自分にとって心惹かれるものであるかを見極めることが大切だ、と話してくれた。

人生は選択の連続だ。もちろん白河に根を張って生きていくというのもまた立派な選択肢である。ただ多くの選択肢の中の一つとして、一度白河を出て外から地元を見つめ直すこと。そしていつか故郷に帰る可能性について考えてみることに。それがあなたの将来を更にわくわくするものに変えるかもしれない。



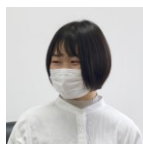
八巻 寿央

やまきとしひろ/1978年生まれ。西郷村出身。
市役所 企画政策課 地域拠点整備室所属



佐藤 裕太

さとうゆうた/1984年生まれ。白河市出身。
市役所 企画政策課 未来戦略係所属



鈴木 知穂

すずきちほ/2000年生まれ。白河市出身。
獨協大学経済学部経営学科3年



高校生に伝えたいこと

八

やりたいことは
学生のうちに
やり尽くしてほしい
自分のやりたいことを明確に
後悔のない決断を！

佐

何を選んだかより
自分で判断して
決めたことが大事！

地元を出ないという選択にも
誇りを持ってほしい

鈴

迷ったら、
興味のある方向に
進んでみて

今あなたの持っている
「好き」はいつか
揺らがない「軸」になるかも！

年間休日

120日 前後

週5日勤務

●1日のスケジュール



23:00

就寝



19:00

家で過ごす時間



18:00

帰宅



8:30

仕事スタート
メール送信
資料作成
企業との打ち合わせ
etc...



8:00

新聞を読む



6:00

起床

Shirakawa Coupon

白河にもっともっと触れてほしい！という思いを込めてクーポン券を作りました
この冊子を持って魅力たっぷりのお店に訪れてみてください！

stamp

1

大谷忠吉本店

〒961-0905白河市本町54
JR白河駅から徒歩5分
☎0248-23-2030
10:00～16:00
定休日：土日祝

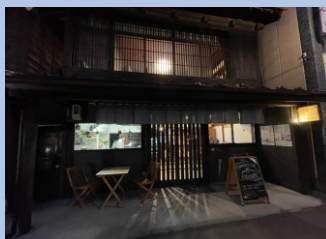


当たりくじを持って
お店に行けば
オリジナルトートバッグ
プレゼント

2

コミュニティ・カフェ EMANON

〒961-0905白河市本町9
JR白河駅から徒歩5分
☎0248-57-4067
15:00～20:00
土日12:00～20:00
定休日：水木
※高校生はいつでもドリンク50%OFF



1人での来店で10%引き
2人での来店で全員20%引き
3人以上での来店で全員半額

1人でも初来店の人がいれば
何度でも利用可！

3

とら食堂松戸分店

〒270-2221千葉県松戸市紙敷1-8-6
北総線松飛台駅から徒歩1分
☎047-311-2355
11:00～14:30
17:00～スープ完売まで
定休日：火（月に1回火水連休あり）



とら食堂（本店）

〒961-0017白河市双石滝ノ尻1
白河駅から車で10分
☎0248-22-3426
11:00～14:30（土日は14:00）
16:00～18:00
※スープがなくなり次第終了
定休日：月（月に2回火水連休あり）



味玉1個
サービス
（松戸分店でのみ使用可）

4

山田パン

〒961-0905白河市本町55
JR白河駅から徒歩5分
☎0248-27-3330
平日8:30～18:00
土祝8:30～17:00
日10:00～16:30
定休日：1/1～1/3



合計金額から
100円引き

大学生の

高校生の時は、「海外について学びたい」という
本当に漠然としたことしか考えていなかった。実際
に大学に入ってから、自分が興味をもた
ものに片手端から挑戦していくことで、自分が将来
どのようなことをして生きていきたいかが明確に
なったと思う。大学というところは、「自分について考える」
きっかけがたくさんあるところ！正直僕も大学
ではなかったけれど、今思えば自分が選択した道に
間違っていないかったし、なにより環境に左右される
のではなく、自分自身で変えていくことが大切だったな
と思います。自分の人生の選択肢を広げるためにも
高校生のうちから色々なことに興味をもっていろと
いいのではなからうかと思っています！

岩塚 菜々



高校生の頃、私は「なりたていもの」が
ありませんでした。就活も控えて今も
迷い迷いながらその大変さを感じて
います。三叉山ある選択肢の中から
何か一つを選ぶのはとても難しいこと
です。でも思い悩むのは考えている証拠
です。皆さんもきっとこの先、悩んだり迷っ
たり、時には後悔したりすることがある
はずです。だからこそ、その時にしかできない
経験ができたのなら、それはそれでいい
のだと思います。そういう積み重ねで
自分が大きく成長し、成長するので。まずは
限られた高校生活をもっと楽しんで
ほしいなあ！高校三年間はあっ
という間に過ぎるから！！

金令木 知寿



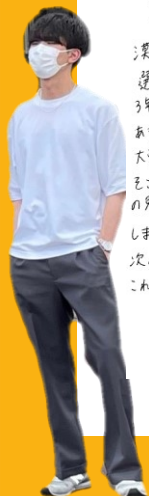
漠然を明確に、より鮮明に

漠然と何かに考えることあると思います。私も漠然とプロ野球
選手になりたいと思って、とある野球が有名な高校に入りました。
3年間高校野球をやって自分レベルを知り、結果プロになれなかったです。
あまりにも漠然と考えていて、目標までの道筋が描けていなかったから。
大学に入学し、世界を舞台にビジネスがしたいと漠然と思っていました。
そこから商社で働く！を目標に、明確に精明に考え、簿記やTOEIC
の勉強をしています。注体性も必要だと思い、この高安セミを選択
しました。最初は漠然といい、でも漠然を明確に鮮明にしないと
次のアクションが分からないでしょう。難しいけど高校生の段階で
これができれば、やりたい自分にきっとなれる！

舘野 朋樹

高校生の頃は国立大学を目指して
勉強していたけれど、田舎に住んでい
ることもあり選択肢はやはり少なかった。あ
たるとにこそ勉強が好きな人なので、
自分が学歴が大学が自分のやりたい
こととどっちでもマッチしているかは
徹底的に調べた。結局希望していた国立大学には
入れなかったけれど、寝る間も惜しんで
勉強した日に後悔はありせん。
高校生のうちから限られた時間
大切に使うことだ。

根岸 来風



私は小から塾に入りがけに勉強していた
反動で、第一志望の高校に入学後、全く勉強が
手につかなくなってしまいました。大学受験に失敗。
1年間の浪人を経て、明治大学に入学しました。
やはり、今でも高校の勉強はちゃんとしておけな
かったと思います。例えば、美術館に行った
時、その絵の時代背景を知っていかないと絵を
観る時間を楽しめなくなると思います。皆さんには夏
休みのためだけでなく、自分の人生を充実させるため
にも勉強してほしいです。お互い頑張りましょう！

水野 奏



「行動から学びへ」
自分が高校生の頃は大学に行けば
いろんな経験が自然にできるものだと思
っていた。しかし実際に大学に行
ってみると自分から行動を起こさなけれ
ば得るものは少ないということが命か
り。そのため今これを読んでくださ
っている方にも是非自分でアクション
を起こして 自分だけの経験を手に
いれちゃってください。

小栗田 翼



世
路
く
ら
い
？

「おもしろく」を最優先に!!!
私が経済学部に入ったのは、なんとなく
ニュースを見ているときに「これを理解できたら
おもしろく...!」と思ったことがきっかけでした。
私のように将来の夢がまだない人は、こういう
選択のしやすさもありだと思います。へ
そは、「どこに入るか」よりも「入った先の
何を頑張るか」が重要なんじゃないかと、
このプロジェクト活動を通して感じています。

五味 翔 情



私たちの活動記録

1年間の軌跡

2021年2月

「地方創生に取り組みたい！」
という7人が集まる

白河市に出会い
社会減の抑制が
大きなテーマに

2021年5月・6月

ヒアリングや準備を開始
EMANONや市役所の方と出会う

白河市を訪問した際に
プレゼンの機会をいただく

2021年7月～9月

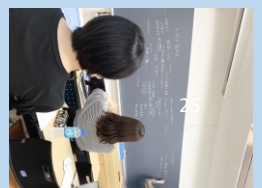
方向転換を模索しつつ
企業や他大学の方と白河への
アプローチ方法を検討

市内3つの高校に
アンケートにご協力
いただき課題がより明確に

2021年10月

冊子×バーチャル空間
二本立てでの活動を決意
2月に市役所への提言を予定

高校生の皆さんも
地方創生に
取り組んでみませんか？



謝辞

冊子を読んだ皆様、いかがだったでしょうか。
この冊子を作成するにあたって白河市の方はもちろん
白河市以外の方にも多くのご協力を頂きました。
冊子完成までにご指導・ご協力いただいた全ての皆様に
心より感謝申し上げます。

SPECIAL THANKS

獨協大学経済学部 高安健一教授

信州大学経法学部 武者忠彦教授

白河市役所企画政策課 佐藤裕太様

一般社団法人未来の準備室代表
青砥和希様

福島県立白河高等学校

福島県立白河旭高等学校

とら食堂松戸分店店主 小林和明様

株式会社白河川島製作所 遠藤滉也様

とら食堂

ダルライザープランニング
和知健明様

獨協大学教職員の皆様

埼玉大学工学部 小林貴訓教授

同上 石山悠斗様

白河市役所企画政策課 八巻寿央様

白河市役所の皆様

福島県立白河実業高等学校

コミュニティ・カフェEMANON

非営利団体KAKECOMI代表
鴻巣麻里香様

合名会社大谷忠吉本店

株式会社山田パン

埼玉大学小林研究室の皆様

高安ゼミ生の皆様



白河、サイコウのすすめ

2021年12月10日

著者 獨協大学経済学部
高安ゼミナール白河Re:PGチーム

Mail community12th@gmail.com

Facebook [takayasuseminar2017](https://www.facebook.com/takayasuseminar2017)

住所 獨協大学
埼玉県草加市学園町1-1

※禁無断転載

